



《《ペットの飼い主向け》》

ペットの災害対策ガイド

～一緒に災害を乗り越えるために～



災害はいつ起こるか分かりません

あなたとあなたの大事なペットを守るため、

日頃からの備えが大切です

松本市



松本市の防災情報

■ 主な災害の種類

● 地震

地震による大きな揺れにより、建物の倒壊、道路の寸断、水道・電気・ガスなどのインフラの停止、電話やインターネットの不通など、甚大な被害を受けるおそれがあります。

松本市では、震度 6 弱以上の大規模地震が発生したときに、使用できるすべての指定避難所が開設されます。最寄りの指定避難所がどこにあるか確認しておきましょう。

● 浸水害・土砂災害

台風の接近による暴風雨、集中豪雨の発生、河川の氾濫などにより、自宅の浸水被害や斜面の崩落による土砂災害が発生するおそれがあります。

松本市では、避難情報が発令されると、地区公民館など一部の指定避難所が開設されます。テレビやラジオ、インターネットなどで天気予報や避難情報をこまめに確認しましょう。

■ 避難場所

避難所が開設されているか
確認してから避難しましょう

松本市 避難場所

検索

● 指定避難所

地区公民館や小中学校など、市内 159 の施設を指定避難所に指定しています。

災害の危険がなくなるまで滞在したり、災害で家に戻れなくなった場合に一時的に滞在できます。

● ペットと過ごす避難所

芳川公民館の隣の南部屋内運動場を、ペット同行避難者の専用避難所に指定しています。

ケージやキャリーバッグに入る屋内飼育の犬・猫・小動物と一緒に避難することができます。

● 自家用車でペットと過ごす避難駐車場

松本市野球場の北側駐車場を、自家用車両による一時避難駐車場に指定しています。

風水害などの短期的な災害時に、ペットと一緒に車中で避難することができます。

※車中泊はできません。

■ ハザードマップ

松本市 ハザードマップ

検索

ハザードマップには、大雨による浸水想定区域、土砂災害警戒区域、活断層の位置、指定避難所の場所などを掲載しています。

住んでいる地域でどんな災害が起こる可能性があるか、確認しておきましょう。

1 ペットと一緒に避難できるように話し合っておきましょう

■ ペットとの同行避難

ペットとの同行避難とは、災害が発生したときに、飼い主とペットと一緒に避難場所まで安全に避難することをいいます。

過去の災害では、いったん避難した飼い主が、ペットを避難させるために自宅に戻り、災害に巻き込まれてしまった事例がありました。ペットとともに躊躇せず避難することが大切です。

■ 家族で話し合い

災害が起こったときにどう対応するか、様々な場面を想定して、家族全員で話し合っておきましょう。ペットを守るか、ペットを連れて避難できるか、動物の種類や数をよく考えて飼うようにしましょう。また、飼い主が飼育できない状況を想定して、親戚や友人など、緊急的にペットを預かってくれる方を複数探しておきましょう。

話し合いのポイント

- ・家族間の連絡方法と集合場所を決める。
- ・非常持出袋などの備蓄物資の保管場所と中身を確認する。
- ・飼っているペットの避難方法を確認する。
- ・飼い主が留守中に災害が起きたときの対処方法を検討する。



■ ご近所や飼い主仲間との連携

普段から、ご近所の方々と良好な関係を築けるよう、コミュニケーションや飼育マナーに気を配るとともに、災害時にはお互いが助け合えるよう、ご近所や飼い主仲間と話し合っておきましょう。

防災でのキーワード「自助」「共助」「公助」

- **自助**:自分とペットの命は自分で守ること
- **共助**:ご近所や飼い主仲間で助け合うこと
- **公助**:行政機関などの公的機関が支援すること

※大規模な災害では、行政機関などによる支援が始まるまで、自助や共助により乗り越えなければなりません。

※飼い主には、まずは自分の安全を確保し、その上で、ペットの安全と健康を守り、他者に迷惑をかけることなく、ペットを適正に飼育管理する責務があります。

2 住まいや飼育場所の安全を確保しましょう

住まいを強くしておくことが、一緒に住んでいるペットの安全にもつながります。災害に備えて、家具の固定や窓ガラスの飛散防止などの対策をとりましょう。

■ 家の中で飼っている場合

● 地震に備えて

- ・動物が普段いる場所は、家具やケージが倒れたり落下したりしないようしっかり固定し、窓ガラスが割れて飛散しないようフィルムを貼るなどの対策をしましょう。
- ・水槽などで動物を飼っている場合は、台に固定し、ガラス飛散防止フィルムを貼るなどの対策をしましょう。

■ 外で飼っている場合

● 地震に備えて

- ・犬小屋などの飼育場所は、破損しやすいブロック塀やガラス窓の下、倒れやすいもののそばは避けましょう。
- ・動物が大きな揺れに驚いて逃げ出すことがあるので、首輪や鎖が外れたり切れたりしないか、ケージや囲いに隙間がないか、定期的に点検しましょう。



● 浸水害・土砂災害

- ・強風のおそれがある場合は、飛来物で動物が怪我をしないよう、飼育場所を考えましょう。
- ・雨水が流れ込んで浸水しないよう、飼育場所は低いところを避けるとともに、土のうなどを準備できるようにしておきましょう。

飼育できる数を考えて飼いましょう

ペットを連れて避難できるか、一緒に避難生活を送ることができるか、飼育できる数をよく考えて飼うようにしましょう。

多くのペットを飼っていて同行避難ができない場合は、飼う数を減らすことを検討するとともに、住まいを災害に強くしておきましょう。

3 ペットの避難用品や備蓄品を準備しましょう

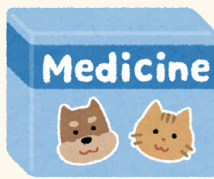
ライフラインの寸断や緊急避難に備えるため、必要な物資を準備しましょう。

持ち出し品には優先順位をつけ、すぐに持ち出せるようにしておきましょう。

※飼い主の避難用品と一緒に持ち出しますので、分量を考えて準備してください。

優先順位 1 ペットの命や健康、移動に関するもの

① 療法食・薬



② ペットフード・水
(少なくとも5日分)



③ 食器



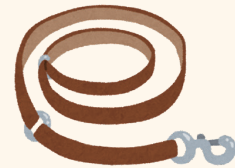
④ ペットシート・トイレ用品



⑤ キャリーバッグ・ケージ



⑥ 予備の首輪・リード



優先順位 2 ペットの情報に関するもの

① ペットと飼い主の情報（情報を記載した紙をクリアファイルなどに入れておきましょう。）

※避難先でキャリーバッグやケージに掲示することで、ペットの居る場所を分かるようにします。

- ・ペットの情報:動物の種類、品種、名前、性別、毛色、写真
- ・飼い主の情報:氏名、連絡先

優先順位 3 ペットの生活に関するもの

- ① ビニール袋（排泄物の処理など）
- ② タオル・ブラシ（足拭きや抜け毛予防など）
- ③ ウエットティッシュ・清浄綿（目や耳の掃除など）
- ④ ガムテープ・マジック（ケージの補修、動物情報の掲示など）
- ⑤ おもちゃ（動物のストレス軽減など）
- ⑥ 消臭剤、消毒液（臭い対策や感染症対策など）

4 ペットのしつけと健康管理をしましょう

突然の災害は、ペットにも大きなストレスがかかります。さらに、慣れない避難生活では、大勢の人や見知らぬ動物と一緒に生活で体調を崩しがちになります。

普段から健康状態に注意するとともに、ワクチンなどの予防接種を受けておきましょう。

しつけ

- ケージやキャリーバッグの中に嫌がらずに入ることができる ▶ 避難生活では、ケージなどに入る時間が長くなりますが、その間のストレスを軽減できます。
- 決められた場所で排泄できる ▶ 排泄による悪臭はトラブルの元になりますので、決められた場所での排泄が望ましいです。
- 他の人や動物を怖がらず、攻撃的にならない ▶ 動物のストレスを軽減することができ、犬は無駄吠えを抑えられます。
- 犬は「待て」「お座り」「伏せ」などの基本的なしつけをする ▶ 避難生活では多くの人と動物がいますので、飼い主の言うことを聞けるとよいでしょう。



健康管理

- ノミ、ダニ、フィラリアなどの寄生虫の予防をする ▶ 感染症のまん延を防止するため、清潔を保持することが大切です。
- ワクチンなどの予防接種を行う ▶ 伝染病予防のため、混合ワクチンを接種し、日頃の健康管理に気を付けましょう。
- 犬は狂犬病予防注射を毎年1回接種する ▶ 法律に基づく犬の飼い主の義務なので、毎年必ず接種しましょう。
- 不妊去勢措置（手術）を行う ▶ 発情時期によって鳴き声などを誘発したり、逃走した場合に望まぬ妊娠をするおそれがあります。



5 ペットが迷子にならないようにしましょう

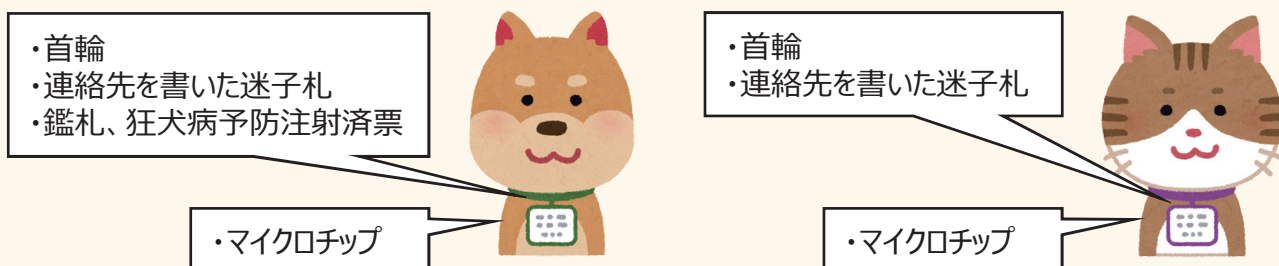
災害時には、ペットが逃げ出してしまう可能性があります。ペットが保護された際に、無事に飼い主のもとに戻れるよう、所有者を明らかにしておくことが大切です。

■ 首輪・迷子札

- ・首輪が付いていると、「飼い犬」「飼い猫」であることがひと目で分かります。
- ・首輪には、連絡先などを記入した迷子札を付けておきましょう。
- ・犬の場合は、鑑札と狂犬病予防注射済票も必ず装着しましょう。

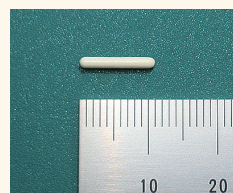
■ マイクロチップ[°]

- ・動物の皮下に装着されるため、首輪よりも確実な所有者明示になります。
- ・マイクロチップを挿入した際は必ず、（公社）日本獣医師会などに情報を登録しましょう。



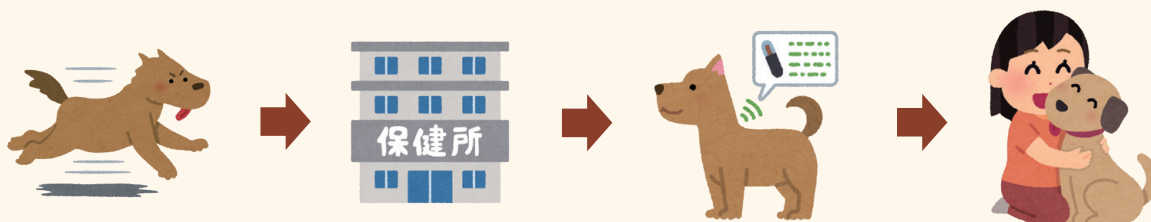
マイクロチップとは

マイクロチップは、長さ1 cm程度のカプセル状をしており、獣医師が専用の注射器で皮下に注入して装着するものです。



マイクロチップには15桁の番号が記録され、この番号に飼い主の氏名や連絡先などの情報を紐付けして、（公社）日本獣医師会などのデータベースに登録します。

万が一、ペットが逃げた場合でも、保健所などで保護され、マイクロチップの登録情報から飼い主が判明すれば、飼い主のもとに戻ることができます。



災害発生時の対応

大規模地震が発生したら

① まずは人の身の安全

- ・ガラス窓や家具から離れ、丈夫なテーブルや机の下に身を隠し、クッションなどで頭を保護しましょう。
- ・揺れが収まったら、火の始末をしてドアを開けて避難経路を確保しましょう。

② ペットの安全

- ・突然の大きな揺れで動物もパニックになり、いつもと違う行動をとることがあります。興奮している動物に不用意に手を出して咬まれるなど、思わぬ怪我をしないよう気を付けましょう。
- ・飼い主は落ち着いて普段通りの言葉をかけるなど、動物を落ち着かせるように努めてください。

③ 避難の判断

- ・室内のガラスの飛散や転倒した家具などに注意しながら、このまま自宅で過ごすことができるか、自宅の安全を確認しましょう。
- ・自宅にいたことが安全でない場合は、避難の準備をします。非常持ち出し袋を用意し、電気のブレーカーを切り、ガスの元栓を止めます。

● 犬の場合

リードを付け、首輪が緩んでいないか確かめます。小型犬などは、リードを付けた上で、キャリーバッグに入れましょう。

● 猫の場合

キャリーバッグやケージに入れます。キャリーバッグなどの扉が開かないよう、ガムテープなどで固定しましょう。



④ 避難場所へ

- ・自宅から出るときは、リードは離さないようにしっかり持ち、キャリーバッグやケージはしっかり抱えて動物の安全に気を配りましょう。
- ・倒壊した建物や切れた電線など、足元や頭上に気を配り、落ちついて行動しましょう。

令和5年3月 発行

松本市保健所 食品・生活衛生課

(協力：危機管理部 危機管理課)

〒390-8765 長野県松本市大字島立1020番地

長野県松本合同庁舎1階

TEL 0263-40-0706

<https://www.city.matsumoto.nagano.jp>

